

# パンタール通信

南北米福地開発協会

会報

2009年6月1日

69号



野焼きの火がレダの基地の近くまで延焼する（2009年4月23日飯野氏撮影）

釣り人が狩りの人が、誰かが火を付けて一週間以上燃え広がり続け、ポート・ヌエボから公館前の支流までおよそ10km x 5kmに及ぶ範囲でほとんどが焼き尽くされた。地面にまだ熱さの残る現地に立つてみると、ヤシの木は幹が黒こげ、草や雑木は燃え落ち、一面焼け野原でした。

国際的に地球温暖化が叫ばれ、パラグアイでもやっと数年前から環境破壊に通ずる野焼きが法律で禁止されるようになったと伺っていますが、こうした僻地では誰も取り締まる人がいません。

とりわけ今年は例年にない勢いで炎と煙がバチバチという音を立てて風下の基地に向かってどんどん近づいて来た時には緊張を覚えました。消防車はなく、消火手段もバケツや家庭用消火器だけでは、この火勢に對して全く無力です。

そんな中でも焼け跡には、早くも若い草の芽が3cmほど伸びて来ているのを発見したり、トンボや蛇の姿にも自然の逞しさと生命力に感動を覚えました。

今は連日の大量の灰も降って来ることも無く、再び自然の世界に平和が訪れています。

（レダより飯野氏報告）







秋の訪れが忍び寄る三月頃から日照りが続き、さすがの逞しいブーゲンビリアも花を落とし、緑の葉だけがしばらく続く日々でした。そんなわけで五月に入って十三日までになんとか四回も秋雨の恵みを受け、一気に花を呼び戻し、今やブーゲンビリアの花真つ盛り！です。蝶や蜂や小鳥たちだけでなく私達にとっても天国はこのような花園だろーと思わせるほど心に喜びを与えます。



五月一日は、労働者の為の祝日。日頃の彼らのご苦労に感謝を込めて、一頭の牛をほふつてアサド（南米流焼き肉）をしました。牧童達が率先して炭火で棒に刺した肉を見事に焼きあげ、私達がその肉を食べやすいサイズに切つて、皿に盛り上げ各自に渡します。お代わり自由ということ、肉を腹いっぱい食べて、誰もが満足です。警察官も海軍さんも一緒に一皿でも食べきれないという私達とは大違いです。この活力があつた天下汗して働くパワーを生み出すのでしょう。

一九九九年十月一日から始まったパンタール地方レタ開拓も満十年を迎えます。十年の開拓の歴史を記念し、レタ現地に開拓十周年記念し、現地訪問ツアーを計画しています。現地に記念植樹をした方も自身の記念樹の成長を確認する良き機会になります。詳しくは来月号のパンタール通信にて発表します。



### 牧童小屋完成間近！

支流奥地6kmに通ずる道が作られ、そこに牛を集める囲い柵が作られたことは、既に報告して来ましたが、その傍に牧童小屋がケブラッチョとパルマ（ヤシ）の木で造られました。牧童達も仕事がいやしくなると喜んでいます。もつとすぐ完成ですが、既に建設請負の人々が、連れて行った茶色の猫が小屋の土間の真ん中で、気持ち良さそうに寝ていました。

モリンガの花真つ盛り！ニームの木と共に当会が力を入れて植樹している木がこのモリンガですが、白い可憐な花がモリンガ林全体を覆い、碧い空に揺れています。この林の中に居ると爽やかな風を受け、鳥のさえずりを聴きながら平和と幸せを感じます。





## 柴沼事務局長、パラグアイ訪問。

今年の国際協力青年奉仕隊の具体的な活動を決定するため、インディヒナ、ディアナ村の学校関係者と打ち合わせをしました。

また、エステ市近郊で植林活動も計画しており、その調査のため、四月十五日から二十七日まで滞在しました。

ディアナ村を訪ねる前に昨年、第八回青年奉仕隊が植樹を行ったエスペランサ村を訪問し、植えたニームの樹の成長を見て来ました。植えた樹は予想以上に元気に成長しておりました。

昨年、九月の初めに植えた時は三十センチほどの苗木でしたが二メートルを越し、葉ぶりも豊かで、メイン通りの景観を変え、学校の校庭により良き、勉学の環境を作り出していました。



エスペランサ村の訪問の後、今年、行うディアナ村に行き、ディアナ村の学校長、そして村の役員の方と今年の青年奉仕隊の植樹場所を決定し、彼らが来る前の準備について、アシションから同行してくれた、現地法人、南北米福地財団の佐野副会長とともに話し合いを持ちました。



ディアナ村小学校の校長と

エステ市郊外に南北米福地財団が育苗所を一年前より始め、現在、三千本の苗木が育っており、今年、青年奉仕隊のため、ニームの種を植え、五千本育てている。エステ市はパラグアイ東部地域に位置し、西部チャコ地方と違い、土壌が豊かで、以前は森林地帯であったが大規模農業により、森林が破壊されてきた。土壌は豊かな養分が含まれており、植林活動を進めれば大きな成果が期待できる地域です。今年、青年達の活動に御期待ください。

## 二〇〇九年国際協力青年奉仕隊 (八月二十五日 九月十日)の活動計画 ディアナ村植樹ならびにエステ市での植林 (五千本計画)

エステ市にある州議会の事務所を訪ね、環境問題を扱う二人の州議会議員に地域の森林再生の状況を聞き、今年、青年奉仕隊の活動計画を報告し、協力をお願いする。パラグアイは過去、世界的に見ても国土の大きさに比較し最も森林伐採を行った国との統計が出ているので、森林の再生には国が強力に進めていくという国がいます。計画はあるが実践にはこれからのことで今回、日本からの青年達の植林活動には大きなインパクトがある





# 第九回国際協力青年奉仕隊 参加者募集六月十五日まで！

期間 ○九年八月二十五日

九月十日

活動地域 パラグアイ国

レダ近郊

活動内容 インディヒナ村  
植林、文化交流、エコツアー

参加資格 一八歳―二五歳

参加条件 小論文

(参加の動機及び将来の夢)

応募人数 八名

参加費用 十五万円

参加費用 十五万円



青年奉仕隊の活動は皆様の支援で行われて来ましたが、第九回青年奉仕隊も皆さまの温かい支援でなされます。

左記の口座に本年もよろしくお願いいたします。

本年は一昨年、昨年と行ってきた植林活動をレダ近郊のディアナ村と東部エステ市近郊で行います。

郵便口座

一〇一八〇一

七六八〇四七一

代表 柴沼邦彦

## 支援のお願い

ご家庭に眠っている未使用の切手、はがき、印紙などがありましたら事務局に送ってください。



## 第9回ピースライフセミナー開催

5月4日5日



川崎市民プラザにて70名余りの方が参加

『今回、セミナーにでて、パンタナールの話が聞けてとてもよかったです。いつか南米に関係するものにかかわっていきたくて思っていたのでとても心がおどりました。(十六歳)』

『理論を語るだけではなく、実践を通して文化が浸透していく、という話に非常に感銘を受けました。また、モリンガやニームの持つ驚異的な力を聞き、全て準備されているのだな、と感じました。これは、私たちだけに止めておくべきでなく、もっともっと広げていくべき内容だと思えました。私にできる取り組みを考え、今日から実践していきたいと思えます。(三十歳)』

『協会の活動を知り、10年間のレダの苦勞が現地で実っていることを知りました。先輩の方々の苦勞が大きく花開いていることに心から感動しました。日本の地にて植樹の協力も今までより以上に続けていきたいと思えます。これからも南北米福地開発協会の為に精一杯、協力していきたいと思えます。(五十六歳)』

第九回国際協力青年奉仕隊への参加希望者は事務局に連絡し、所定の書類を受け取ってください。六月十五日までに参加希望者の小論文と履歴、そして紹介者の推薦文を添えて事務局に送ってください。

六月十六日に参加者の発表を致します。

## 南北米福地開発協会六年度の予定

環境セミナー

六月二十一日 南北米事務局にて

午後二時より

(費用 二千円資料代含む)

## 南北米福地開発協会会員の募集

南米、パラグアイパンタナール地域への植林活動を通じて生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、世界に環境保護の大切さを訴えています。会員は月五〇〇円、毎月、パンタナール通信を送ります。また、各種のセミナーの案内をいたします。

## 南北米福地開発協会 事務局

〒二一三三〇〇〇一

神奈川県川崎市高津区

溝口二一十一十五

岩崎ビル四F

電話

〇四四一八二九一二八二二

Fax

八二九一二八二二〇

会費納入

郵便口座

一〇一八

〇一七七六八〇四七一

E-MAIL

office@asd-nsa.jp

ホームページ

http://www.asd-nsa.jp

代表 柴沼邦彦